

氏名：田中 洋輔

専攻・学年：工学部物理工学科 機械システム学コース 4 回生

派遣国：アメリカ

派遣先(研究機関名)：University of California, Davis

受入研究者(職・氏名)：Professor Janis Williamson

派遣期間：2011 年 8 月 13 日 ~ 2011 年 9 月 5 日 (24 日間)

派遣先での研究テーマ：京都大学共同企画 実習型 夏季短期留学プログラム UC Davis (カリフォルニア大学デービス校) EXTENSION

(UC Davis EXENSION, Kyoto University English for Science and Technology Interdisciplinary Research Program)

### 【研究実施概要】

派遣先では、午前中に読解演習、発音練習、プレゼンテーション演習を行いました。午後には、環境、医療、交通の第一人者にスピーチしていただく Program Lecture が 3 回行われ、その前後には各分野の基礎知識を学ぶ準備講座と、スピーチの内容を英文で要約する復習講座が行われ、さらに理解を深めました。さらに3~5 人ごとの小グループに分かれて、各グループが科学系の各分野を担当し、最終日に最終プレゼンテーションとして発表しました。ここでは、午前中のプレゼン演習と、グループごとの最終プレゼンについて具体的に述べたいと思います。

プレゼン演習では、パワーポイントを使って、短いプレゼン(5 分程度)を計 4 回行いました。現地のレストランを紹介する Idiom Presentation、各自の研究テーマの第一人者を紹介する Famous Academic Presentation、現地で使われているイディオムを紹介する Idiom Presentation、ホストファミリーを紹介する Host Family Presentation の 4 回です。

グループ研究では、私のグループは Bike Lane Planning(バイクレーン建設計画)を担当しました。期間中に設けられた 3 回の企業訪問(Site Visit)では、サンフランシスコ、サクラメント、デービスの 3 都市の都市計画担当者の方とお会いして、お話を伺った後、実際に自転車に乗り市内をめぐって、ポイントとなる交差点や道路状況を実際に視察しました。それらで撮った写真や Site Visit 先でいただいたデータをまとめてプレゼン資料を作成し、最終日に発表しました。

### 【研究成果概要】

派遣前の研究計画は、英語でのプレゼンテーションスキルの向上と、バイクレーンの京都への導入でした。

プレゼンテーション演習では、英語特有の導入表現や発表表現なども学びましたが、一番大事なのは、声の大きさやアイコンタクトなど、日本にも共通するものだということがわかりました。最終プレゼンの中間発表(計 3 回)も含めると、期間中に 8 回のプレゼンテーションを行いました。そのすべてで先生や生徒から客観的な評価をいただけるので、非常にためになるものでした。私はアイコンタクトをよく指摘されたので、最終プレゼンではそれに注意して取り組みました。

バイクレーン(自転車専用レーン)建設のテーマを派遣前に選択した理由の一つには、「京都は自転車がよく利用されているのにあまりにも(車・自転車・歩行者すべてにとって)危険な地域が多い」という私の昔からの思いがありました。そのため、バイクレーン建設で世界の最先端に行くデービスやその他の都市を視察し、京都にもバイクレーンの導入を提案したいと考えました。

まず始めにバイクレーン建設の背景やさまざまな種類のバイクレーンを学びました。そしてまず具体的に京都市の問題点(道が狭い、違法駐車・違法駐輪、道を広げるのが難しい、駐車場・駐輪場不足等々...)を洗い出し、それに対応するにはどうすればいいかを検討しました。特にサンフランシスコで学

んだ、狭い道路での建設方法の工夫は、京都での建設に役立つものだと考えました。

【外国語のスキルアップ・コミュニケーション能力の向上, 海外におけるネットワークづくり】

派遣先では、授業で読解演習や発音練習を行いました。やはり 1 番英語力がついたと実感したのは、ホストファミリーとの会話でした。私の家ではホストファミリーが 1 人で年齢も近いので、常に会話の機会に恵まれていたため、派遣当初の頃よりも積極的に話せるようになり、相手の話すジョーク等にもついていけるようになりました。特に日本でなかなか向上しづらいとされているリスニング力とスピーキング力がついたことで、自信にもつながり、さらに他の外国人の方ともコミュニケーションがとれるようになりました。もちろん一緒に生活しているわけですから、日本では習わないような単語も何とか知っている単語をつなげて表現するといった力もつけることができました。

派遣先の UC Davis さんが様々な企画やイベントを用意してくださり、現地の人とも交流を深めることができました。大勢が集まってやるパーティにも呼ばれ、皆でカレーを食べた後、外でバレーボールやフリスビーをして一緒に汗を流し、人脈を作ることができました。今でも連絡をとっている友達です。

【派遣の感想】

全体を通して非常にいいプログラムだなと感じました。

3 週間という期間が私にとってちょうどよかったかなと思います。デービスでの生活は非常に楽しかったのですが、やはり食事面で日本が懐かしくなっていました。また、私は既に研究室配属された 4 回生という立場でもあり、9 月初旬に日本に帰れたことで卒業論文にも滞りなく始めることができました。もともとは 4 週間のプログラムを 3 週間に圧縮されたものであるため、課題や提出物などがハードで、特に最初の 1 週間は追いつくのが大変でしたが、時間管理など基本的なことを大切にすることも身についたと思います。

先に述べましたが、安全面での充実も非常に助かりました。様々な保険に加入している上、行きの間空から帰りの間空まで安心して過ごすことができました。また、派遣先の担当者の方がグループのリーダーを定期的に集めて何か問題はないかと優しく尋ねているところも印象的でした。(私はリーダーではなかったので詳しくは把握していません。申し訳ありません。) 留学したいけど、1 人で行くのはちょっと不安が残るという方に非常にお勧めしたいと思います。

最後に、経済面について述べたいと思います。私は以前から留学してみたいと考えていましたが、この留学プログラムは 50 万を超えるプランなので、組織的な若手研究者等海外派遣プログラムさんの援助がなければ、おそらく参加する決意ができなかったと思います。さらにその内容は単なる語学研修に留まらない充実したプログラムだったので、非常に満足していると同時に、様々な援助をしてくださった各機関の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。